



11月30日(木)の午後から千葉県文化会館にて、行われた古典芸能鑑賞「学校寄席」第一部三番目の演目は、八代目春風亭柳橋(しゅんぷうてい りゅうきょう)師匠による「落語」でした。

師匠は、「落語は、ことば遊びが基本です。落語を通して日本語を学んでほしい。ことば遊びの中には、川柳・ダジャレ・小噺・なぞかけがあります。私が、大学で授業を受け持っている学生たちの『なぞかけ』の例を紹介しましょう」と落語の基本について話していただきました。その後、落語「転失気(てんしき)」を鑑賞しました。(転失気は、古典落語の演目の一つです。医学用語である転失気の意味がわからないのに、知ったかぶりをする人々の噺です。)師匠の話の中にあつたとおり、落語を楽しみながら日本語を学ぶとともに、考えさせられた噺でした。

柳橋師匠が教えている学生の「なぞかけ」作品

- ☆「ブランコ」とかけて「乙女心」と説きます。
⇒「こいでゆれます。」(大学生男性)
- ☆「ノート」とかけて「みずむし」と説きます。
⇒「かいたり、うつしたりします。」
(大学生女性)



春風亭柳橋師匠による「落語：転失気」
(知ったかぶりをするを恥をかくというお話でした。)

第二部「恐怖」

第二部「恐怖」では、人間国宝の六代目一龍齋貞水(いちりゅうさい ていすい)師匠による演目、「立体怪談」(四谷怪談の主人公「お岩さん」が誕生するまでの物語)を鑑賞しました。

師匠の深みのある語り口と迫力の声柄に魅了され、怪しく揺れる提灯、突如現れ客席をさまよう幽霊、闇の中で薄暗くともる行灯、青白く糸引く人魂が、噺を盛り上げ、怪談の世界に引き込まれた、あっという間の約一時間の怪談噺でした。



人間国宝の一龍齋貞水師匠による「立体怪談」

千葉北高校にいただいた色紙です！



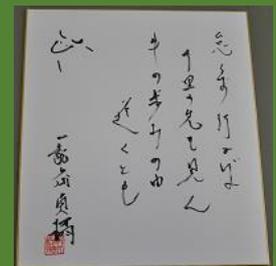
一龍齋貞水師匠から
頂いた色紙



春風亭柳橋師匠から
頂いた色紙



林家正楽師匠から
頂いた色紙



一龍齋貞水師匠から
頂いた色紙

転失気とは、「おなら」のことです。